

光をつなぐ! ~シーズンXIV~

わたしの糖尿病黄斑浮腫治療 —病態と診断から—

日時

2023年4月8日(土) 12:00~13:00

会場

第6会場(東京国際フォーラム7F ホールD7)

オンデマンド配信

2023年4月27日(木) 正午~5月26日(金) 正午

座長

坂口 裕和 先生

岐阜大学大学院医学系研究科 感覚運動医学講座 眼科学分野 教授



糖尿病黄斑浮腫(DME)をテーマとしたわかもと製薬の共催セミナー『光をつなぐ!』シリーズも、今回で14回目となりました。10年前のシリーズ開始当初にくらべ、DME診療は病態の理解、診断技術、そして治療において大きな進歩を遂げています。日本において糖尿病網膜症は、中途失明の原因疾患としての順位は下がったものの、その合併症としてのDMEは病期を問わず発症し、再発を繰り返すなど難治な症例も少なくありません。

そこで本セミナーでは、DME治療のさらなる発展のために、研究や診療の第一線でご活躍されているお二人の先生にご登壇いただきます。野崎実穂先生には最新の画像診断と光凝固治療について、喜田照代先生には病態に関する最新の知見と薬物治療についてご解説いただきます。

基礎・臨床の両面から考えた最新のDME治療をレクチャーいただけるセミナーです。ご参加の先生方のDME診療の一助となれば幸いです。

講演①

わたしのDME治療

~multimodal imagingから考える光凝固治療~

野崎 実穂 先生

名古屋市立大学医学部附属東部医療センター 視覚科学 教授



講演②

わたしのDME治療

~病態から考える薬物治療~

喜田 照代 先生

大阪医科薬科大学 眼科学教室 主任教授



わたしの糖尿病黄斑浮腫治療 — 病態と診断から —

日時 2023年4月8日(土) 12:00~13:00

会場 第6会場(東京国際フォーラム7F ホールD7)

オンデマンド配信 2023年4月27日(木) 正午~5月26日(金) 正午



座長

さかぐち ひろかず

坂口 裕和 先生 岐阜大学大学院医学系研究科 感覚運動医学講座 眼科学分野 教授

【略歴】

1995年	大阪大学医学部 卒業、同眼科 入局	2013年	大阪大学医学部眼科 講師
1996年	泉大津市立病院眼科	2014年	大阪大学大学院医学系研究科 先端デバイス医学寄附講座 准教授
1997年	東大阪市立総合病院眼科	2021年	岐阜大学大学院医学系研究科 感覚運動医学講座 眼科学分野 教授
1999年	クリーブランド診療財団・コール眼研究所 リサーチフェロー		
2005年	大阪大学医学部眼科 助手		

講演① わたしのDME治療 ~multimodal imagingから考える光凝固治療~



演者

のぞき みほ

野崎 実穂 先生 名古屋市立大学医学部附属東部医療センター 視覚科学 教授

【略歴】

1993年	名古屋市立大学医学部 卒業 名古屋市立大学眼科学教室 入局	2021年	名古屋市立大学大学院 医学研究科視覚科学 准教授
1997年	名古屋市立大学眼科学教室 助手	2022年 9月	名古屋市立大学医学部附属 東部医療センター 視覚科学 教授
2004年	米国ケンタッキー大学眼科 フェロー		
2006年	名古屋市立大学眼科学教室 病院講師		
2008年	同 講師		

糖尿病黄斑浮腫治療(DME)に適応のある抗血管内皮増殖因子(VEGF)薬が昨年新たに登場し、抗VEGF薬の治療選択肢が増えました。しかし、実臨床では治療抵抗性の症例や大規模臨床試験のような頻度で治療できないなどから、抗VEGF薬のみでは治療が難しい症例が存在すると思われます。また、光干渉断層血管撮影(OCTA)の普及、ナビゲーションレーザーなどにより、DME診療は大きく変化しています。以前はDME治療の中心であった光凝固治療は、薬物治療が第一選択となった今は忘れ去れつつある治療法ですが、実臨床では光凝固治療が有効な症例がまだまだ存在しています。

そこで本講演では、DMEのmultimodal imagingから考える光凝固治療について、皆様と考えたいと思います。

講演② わたしのDME治療 ~病態から考える薬物治療~



演者

きだ てるよ

喜田 照代 先生 大阪医科薬科大学 眼科学教室 主任教授

【略歴】

1996年 3月	大阪医科大学 卒業	2009年 4月	市立枚方市民病院眼科 副部長
2002年 3月	大阪医科大学大学院 修了、医学博士	2011年 4月	大阪医科大学眼科 講師(准)
2002年 4月	淀川キリスト教病院眼科 医員	2014年10月	大阪医科大学眼科 講師
2005年 5月	米国カリフォルニア大学 サンディエゴ校眼科 フェロー	2020年 4月	大阪医科大学眼科 診療准教授
		2021年 4月	大阪医科薬科大学医学部 感覚器機能形態医学講座 眼科学教室 教授
2007年 6月	淀川キリスト教病院眼科 副医長		

糖尿病網膜症の黄斑浮腫(DME)の薬物治療として、血管内皮増殖因子(VEGF)阻害薬の硝子体注射やトリアムシノロンアセトニドのテノン嚢下注射、さらに昨年には抗VEGF/抗Ang-2バイスペシフィック抗体が保険収載され、患者さんのQOVIは向上し、治療の選択肢も増えました。しかしながら、抗VEGF療法は反復投与が必要であり、また抗VEGF療法だけでDMEが治癒することが困難な症例も少なからず存在します。すなわち糖尿病の網膜浮腫にはVEGF以外の関与も当然予想されます。

本セミナーでは、ステロイドの生理的作用やDMEに対する効能、抗VEGF療法以外の治療法の可能性について、基礎・臨床研究の両側面からお話できればと思います。